

松本歯科大学総合歯科医学研究所では、以下の研究を実施しています。この研究について詳細に知りたい方は、「問い合わせ先」までお問い合わせください。

また、この研究の研究対象者に該当すると思われる方で、ご自身の試料・情報を「この研究課題に利用（又は他の研究を行う機関に提供）してほしくない」と思われた方は、試料・情報の使用を拒否することができますので、「試料等の研究への利用に関する不同意書」をご提出ください。

研究の名称	画像解析技術の応用による新たな骨質評価法の開発
研究責任者	顎顔面外科学講座 栗原祐史
研究期間	2020年8月1日～2025年3月31日
研究の目的・概要	本研究の目的は、インプラント治療のために骨再生治療を受けた患者さんに対して、コーンビームCTにより得られた画像から、再生された骨の状態（骨質）を評価する技術を開発することです。画像を特殊なソフトウェアによって解析することで、骨の成熟によって変化するマーカーを抽出します。本研究によってコーンビームCT画像による骨質評価法が開発されれば、骨再生を行った患者さんに対する適切な治療時期や治療方法を選択することが可能となり、治療期間の短縮とともにインプラントの予後の向上につながることを期待されます。
利用又は他機関に提供する情報	2009年1月～2020年6月までに松本歯科大学病院で骨再生の手術を受けられた方の以下の情報を利用します。 情報：移植部位、移植材料、移植時期、移植後のコーンビームCT画像
試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供する場合はその方法を含む）	情報の利用目的：歯科用インプラントのために人工骨による骨造成を行った患者を対象とし、コーンビームCT画像を用いて、再生骨と既存骨の違いと、人工骨移植部の経時的変化を解析する。 利用方法：埋入1か月以内、埋入後6-7か月、埋入後12か月以上のそれぞれの期間について解析を行う。解析にはImage JおよびImage JのプラグインであるBone Jを用いる。解析対象は骨梁構造、CT値である。移植後1か月以内の画像にてソフトウェア上で既存骨との比較を行い、使用可能なパラメーターの中で移植骨と既存骨とで有意差のあるものを抽出する。それらのパラメーターの経時的な変化から、再生骨の骨化を表す指標となるものを検討する。はじめに5例について検討し、データ数の不足があれば20例まで追加する。
試料・情報を利用する者の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・顎顔面外科学講座 栗原祐史 ・歯科放射線学講座 田口 明 ・口腔インプラント科 植田章夫 ・愛知医科大学歯科口腔外科 各務秀明 ・硬組織疾患制御再建学講座 金 唯真
問い合わせ先	顎顔面外科学講座 栗原祐史 電話：0263-51-2066